

大学生における恋愛類型と恋人選択要因・交際期間との関連

池永 朋子

キーワード：恋愛類型，外見的魅力，交際期間，大学生

恋愛は、私たちに多くの喜びや感動をもたらすと同時に、強い悲しみや苦しさを体験させる。恋愛は様々な感情による経験をもたらすことから、人間を成長させるひとつの契機である。また、青年向けの雑誌に「恋愛特集」が組まれたり、恋愛に関するハウツー本が数多く出版されていることからわかるように、多くの人が常に関心を寄せているものである。しかし、心理学の分野における研究の歴史は浅く、未開拓な領域と言える。Lee(1973, 1974, 1977)は恋愛に関する文献の分析やカナダ・イギリスの青年を対象にした面接調査の結果に立脚して、恋愛関係をAgape, Ludus, Mania, Pragma, Eros, Storgeといった6類型(Table 1)に整理した理論を提示した。しかし、調査の結果によると、6類型の中ではManiaが最も一般的で、Agapeは理念的にしか存在していなかった。

Table 1 Lee(1974, 1977)の各恋愛類型の特徴

名称	特徴
Eros (美への愛)	恋愛至上主義。ロマンティックな考えや行動をとる。強烈な一目ぼれを起こす。
Storge (友愛的な愛)	穏やかな、友情的な恋愛。長い時間をかけて、愛が育まれる。
Ludus (遊びの愛)	恋愛をゲームとして捉え、楽しむことを大切に考える。複数の相手と恋愛できる。
Mania (狂気的な愛)	独占欲が強い。嫉妬、憑執、悲哀などの激しい感情を伴う。
Agape (愛他的な愛)	相手の利益だけを考え、相手のために自分自身を犠牲にすることも、厭わない愛。
Pragma (実利的な愛)	恋愛を地位の上昇などの手段と考えており、いろいろな規準を立てている。

Leeの理論は多くの研究者の関心を呼び、Hendrick & Hendrick(1986)は、この理論を数量的な測定を通して類型の存在を実証するため尺度化を行なった。日本においても松井他(1990)がこの尺度を翻訳したが、回答者から回答のしにくさが指摘されたため、Lee(1974)に基づいて新たな項目を追加し、LETS 2とよばれる独自の尺度を開発した。Hendrick, Hendrick, & Adler(1988)は恋愛関係にあるカップルにこの尺度を適用し、Eros得点が高くLudus得点が高いカップルは、関係が持続することを明らかにしている。しかし、カップルではなく個人について考えたとき、その個人が経験するいくつかの恋愛が持続しやすいかどうか、言い換えれば恋愛が持続しやすいタイプと、しにくいタイプがあるかどうかについては明らかにされていない。そこで本研究では、LETS 2を用いて、恋愛類型と交際期間との関連について明らかにすることを目的とする。

また、淵上・楠見(1987)は大学生を対象になぜその相手と交

際しようかと決定したかについて、パートナー選択としての意思決定過程の視点から検討している。その結果、相手の外見的魅力以外に、相手の態度(感情・行動・認知)、本人の態度、2人を取りまく環境など様々な要因が存在することを明らかにした。しかし、選択した要因が恋愛類型に影響を及ぼすかどうかは明らかにされていない。そこで、外見的魅力を重視する場合恋愛類型のパターンに共通する傾向がみられか、反対に性格を重視する場合はどうかについても検討する。

方法

質問紙の構成 質問紙は、フェイスシートとLETS 2(松井他, 1990)、交際期間や交際回数などの質問から構成されている。LETS 2では冒頭文を少し変更して、「恋人や好きな人もしくは、現在そのような人がいない場合は、過去の恋人や好きな人」を一人想起させ、その異性との関係や異性に対する意識や行動、異性観などを尋ね、それぞれの文章が回答者自身にあてはまる程度を「よくあてはまる」から「あまりあてはまらない」の5件法で評定する。また、LETS 2の中には、恋人を選択するとき「外見的魅力」と「性格」のどちらを重要視するかを判断するために「恋人を選ぶときには、その人の性格よりも外見的魅力を重視する」「恋人を選ぶとき、その人の性格が自分に合っているかどうかよく考える」「恋人を選ぶとき、相手の外見的魅力は重要な要素である」の3項目を付加した。

被験者 男子大学生62名、女子大学生153名。有効回答数は、該当する異性がないと回答した人などを除いた、男子大学生60名、女子大学生127名。

実施方法 大学の講義前の集合調査と個別調査により実施した。回答所要時間は15分程度であった。

結果と考察

LETS 2の尺度得点を松井他(1990)に従って得点化した。次に各類型について男女の差がみられるかどうかt検定を行なったところ、Pragma得点において有意差がみられた(Table 2)。また、大学生は恋愛を第一に考えてロマンティックな気分になり(Eros)、相手を想って様々な激しい感情に駆られる(Mania)ことがわかった。

さらに外見的魅力を重視する男性15名、女性30名と、性格を重視する男性15名、女性30名に分け、それぞれ外見重視群と性格重視群とした。次に外見群と性格群についてt検定を行なったところ、外見群の中で男女を比較した場合のPragma得点においてのみ有意差がみられた($t(43) = 2.535, p < .05$)。女子大学生において外見的魅力を重視する人は、社会的な地位の上昇など、さらに実利的な基準をもっていることが明らかになった。

Table 2 性別にみたLETS-2の得点

型		n	平均値	標準偏差	t 値
Eros	男	60	19.47	5.94	0.976
	女	127	20.54	7.43	
Storge	男	60	16.03	5.94	0.157
	女	127	16.18	6.05	
Ludus	男	60	16.37	6.29	1.317
	女	127	15.07	6.28	
Agape	男	60	18.53	8.05	1.326
	女	127	17.04	6.75	
Mania	男	60	22.08	6.98	0.337
	女	127	22.49	7.98	
Pragma	男	60	12.23	6.30	3.314 **
	女	127	15.84	7.23	

次に交際経験のある学生170名のうち、交際期間や交際回数を考慮し、交際期間が比較的長い男性15名、女性28名と、比較的短い男性15名、女性28名に分け、それぞれ長期恋愛群、短期恋愛群としてt検定を行なった。女性の長期恋愛群と短期恋愛群を比較した場合、Eros得点に有意差がみられた($t(54) = 33.01, p < .01$)。また、男性の長期恋愛群と短期恋愛群においては、Ludus得点に有意差がみられた($t(28) = 2.223, p < .05$)。本研究では個人に対して特定の恋愛について回答を求めているため、算出された各類型の得点からその被験者の恋愛傾向を明らかにすることはできないが、比較的長い交際を経験している女性の恋愛においてはEros得点が非常に高く、男性の恋愛においてはLudus得点が低いと言える。Hendrick et al. (1988)の研究から、Erosが恋愛関係の維持に重要な役割を果たしていることが示唆されると考えられるが、本研究において、特に女性にとってより重要であることが明らかになった。女性は強い一目標をしたり、ロマンティックな考えや行動をする方が恋愛が長く続くと考えられる。また短期恋愛群の男性は、短い交際を繰り返していることから推測されるように、Ludus得点が高い。恋愛を楽しむことが最も大切であると考えているため、相手に執着することがないため、交際が長く続かないと言える。

Table 3 長期恋愛群における男女差

型		n	平均値	標準偏差	t 値
Eros	男	15	19.73	5.75	2.126 *
	女	28	23.96	6.44	
Pragma	男	15	10.80	5.40	2.722 **
	女	28	15.82	5.94	

さらに、長期恋愛群の男女を比較した場合、Eros得点とPragma得点において有意差がみられた(Table 3)。この結果からもまた、長く交際を続けるためには、女性のEros得点が高いことが重要であることが明らかになった。また、男子大学生のPragma得点が高いことから、長く交際している男子大学生

は、相手を様々な基準で他の異性と比較していないと言える。しかし「男社会」である日本の社会構造から考えても、男性は女性に対して地位の上昇など実利的な恋愛目的を持ちにくいと考えられる。

まとめ

本研究では、外見的魅力と性格という恋人選択要因が恋愛類型に影響を及ぼすのか、また比較的長い交際をしている人と短い交際をしている人では、恋愛類型に違いがみられるかどうかを明らかにするため質問紙調査を行ったが、恋人選択要因は特に恋愛類型に影響していなかった。ただし外見的魅力を重視する女性は、その他の実利的基準を立てていることが明らかになった。交際期間と恋愛類型の関連については、長く交際している女性はEros得点が高く、男性はLudus得点が高いことが明らかになった。また、長く交際している学生の男女を比較した場合も女性のEros得点が高い。Pragma得点においても有意差がみられたが、これは総合的な男女比較においても同じ結果であり、男性よりも女性の方が実利的恋愛の傾向があることが明らかになった。以上の結果から、恋愛関係を維持するためには、女性のErosと男性のLudusが重要であり、長期恋愛群と短期恋愛群に有意差がみられたことから、恋愛が長続きしやすいタイプ(女性においてEros得点が高いタイプ)と、しにくいタイプ(男性においてLudus得点が高いタイプ)が存在することが示唆された。

引用文献

- 淵上克義・楠見幸子 1987 青年期の恋愛関係に関する研究 ()Partner選択の意志決定に関する検討 日本心理学会第51回大会発表論文集, 651.
- Hendrick, C., & Hendrick, S. 1986 A theory and method of love. *Journal of Personality and Social Psychology*, **50**,
- Hendrick, S.S., Hendrick, C., & Adler, N.L. 1988 Romantic relations: love, satisfaction, and staying together. *Journal of Personality and Social Psychology*, **54**, 980-988.
- Lee, J.A. 1973 *The colours of love*. DonMills, Ontario: New Press. (Lee, 1974 より引用)
- Lee, J.A. 1974 The style of loving. *Psychology Today* (October), 43-51.
- Lee, J.A. 1977 A typology of styles of loving. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **3**, 173-182.
- 松井 豊・木賊知美・立澤晴美・大久保宏美・大前晴美・岡村美樹・米田佳美 1990 青年の恋愛に関する測定尺度の構成 東京都立立川短期大学紀要, **23**, 13-23.
- 松井 豊 1993 恋愛行動の段階と恋愛意識 心理学研究 **64**, 335-342.